

## 再評価結果（平成29年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：川崎 茂信

事業名	一般国道246号 <small>あつぎはだのどうろ</small> 厚木秦野道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 関東地方整備局
起終点	厚木区間 自：神奈川県厚木市中依知 至：神奈川県厚木市飯山 伊勢原区間 自：神奈川県伊勢原市西富岡 至：神奈川県伊勢原市善波	延長	厚木区間 3.6km 伊勢原区間 4.8km		
<b>事業概要</b> 一般国道246号は、東京都千代田区から神奈川県内の内陸部を横断し、静岡県沼津市に至る延長約120kmの主要幹線道路である。厚木秦野道路は、第一東海自動車道東京湾岸道路（東名高速道路）・新東名高速道路・さがみ縦貫道路を相互に連絡する広域ネットワークの形成を目的とした延長29.1kmのバイパス事業である。 このうち、厚木区間・伊勢原区間では、並行する国道246号の慢性的な渋滞緩和、安全性向上を図るため延長約8.4kmを事業中である。					
厚木	H13年度事業化	H8年度都市計画決定 (H一年度変更)	H14年度用地着手	H26年度工事着手	
全体事業費	約653億円		事業進捗率	46%	供用済延長 0 km
計画交通量	5,700～10,300台/日				
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 1.6  (残事業) 3.5	総費用 (残事業)/(事業全体) 295/ 664億円 (事業費：259/ 628億円) (維持管理費：36/ 36億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 1,038/1,038億円 (走行時間短縮便益：848/ 848億円) (走行費用減少便益：148/ 148億円) (交通事故減少便益：42/ 42億円)	基準年 平成28年	
<b>感度分析の結果</b> 【事業全体】 交通量：B/C=1.4～1.7（交通量 ±10%） 事業費：B/C=1.5～1.6（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=1.4～1.7（事業期間±20%） 【残事業】 交通量：B/C=3.2～3.9（交通量 ±10%） 事業費：B/C=3.2～3.9（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=3.2～3.8（事業期間±20%）					
<b>事業の効果等</b> ①交通混雑の緩和 ・国道246号（現道）は東京と静岡間の東西方向を結ぶ幹線道路であるが、容量不足による渋滞が発生。 ・厚木秦野道路が整備されることにより、国道246号（現道）の通過交通の転換が図られ、交通混雑緩和が見込まれる。 ②交通事故の減少 ・国道246号（現道）の事故発生状況は、渋滞と交差点密度の高さに起因すると考えられる追突と右左折事故が約8割。 ・厚木秦野道路が整備されることにより、国道246号（現道）の交通の転換が図られ、交通事故の減少が見込まれる。 ③沿線地域の観光振興 ・アウトドア・トレッキングや温泉など多様な観光資源を有する沿線市町村の入込客数は近年増加傾向にあり、今後更なる観光入込客数の増加が期待される。 ④企業立地の促進 ・厚木秦野道路の事業化後、沿線市町村（厚木市、伊勢原市）の工場立地件数が増加。 ・厚木秦野道路の整備に伴い、圏央道や東名高速道路、新東名高速道路へのアクセス性が向上し、企業立地の促進が期待される。 ⑤救急活動への支援 ・厚木秦野道路の整備により、第3次救急医療施設である東海大学医学部付属病院からの30分カバー圏人口が増加し、救命率の向上が期待される。 ⑥災害発生時の緊急ルート強化 ・新東名高速道路の厚木南IC（仮称）付近の「神奈川県総合防災センター」は、他県や国から応急活動要員の集結、物資の受け入れ、搬送車両の集結拠点となる。 ・厚木秦野道路の整備により、「神奈川県総合防災センター」から秦野市役所までの代替路線が形成され、リダンダンシーの確保が期待される。					

関係する地方公共団体等の意見

・神奈川県知事の意見:

厚木秦野道路は、さがみ縦貫道路や新東名高速道路等と一体となって、広域的な幹線道路網を形成し、国道246号の混雑緩和はもとより、地域の活性化や災害への対応力の強化などに寄与する重要な路線である。昨年3月に、さがみ縦貫道路が全線開通し、今後、新東名高速道路が順次供用されていく中、本路線の整備に寄せられる県民や企業の期待は大きく、地元自治体からの要望も大変強い。県としては、本事業の促進のため、埋蔵文化財調査などについて、引き続き、関係者と調整を図りながら、積極的に支援していくこととしているので、早期整備を図るようお願いしたい。また、本路線の未事業化区間については、早期に事業化を図るようお願いしたい。

事業評価監視委員会の意見

事業の継続を承認する。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

・国道246号沿線周辺には、東名秦野テクノパーク(平成15年)などの工業団地や商業施設が多く立地している。平成26年度には、隣接区間の厚木秦野道路(伊勢原西～秦野中井)が事業化された。更に、平成27年度にはさがみ縦貫道路が全線開通し、高規格幹線道路の整備が進んでいる。

事業の進捗状況、残事業の内容等

・厚木地区(延長3.6km)は、圏央道(さがみ縦貫道路)の県央厚木ICと国道129号間0.6kmで、平成25年3月に開通したさがみ縦貫道路と一体で用地取得、埋蔵文化財調査を実施済。厚木地区の用地取得率(面積ベース)は約11%(平成28年7月末)。現在は、設計協議、環境調査を実施中。  
 ・伊勢原地区(延長4.8km)は、平成30年度開通予定である新東名高速道路(伊勢原北IC(仮称))の事業進捗に併せて、伊勢原北IC(仮称)周辺の用地取得を重点的に推進し、用地進捗率は約89%(平成28年7月末)。平成26年度から工事着手。  
 ・今後は、用地取得を推進し、計画的に事業を実施するとともに、引き続き、地元協議を進めて効果的に事業推進を図る。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

・埋蔵文化財発掘調査において、当初の想定以上の遺構が確認されている状況を踏まえ、供用開始年次を平成35年から平成38年に変更する。

施設の構造や工法の変更等

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の事業の効果および進捗状況、関係する地方公共団体等の意見、事業評価監視委員会による審議を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。  
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。